

第六次総合計画 施策評価シート(令和2年度)

1-④

施策

子どもたちが緑や生き物などの自然にふれながら、学べる機会を提供する

担当部局

教育委員会, 環境リサイクル局

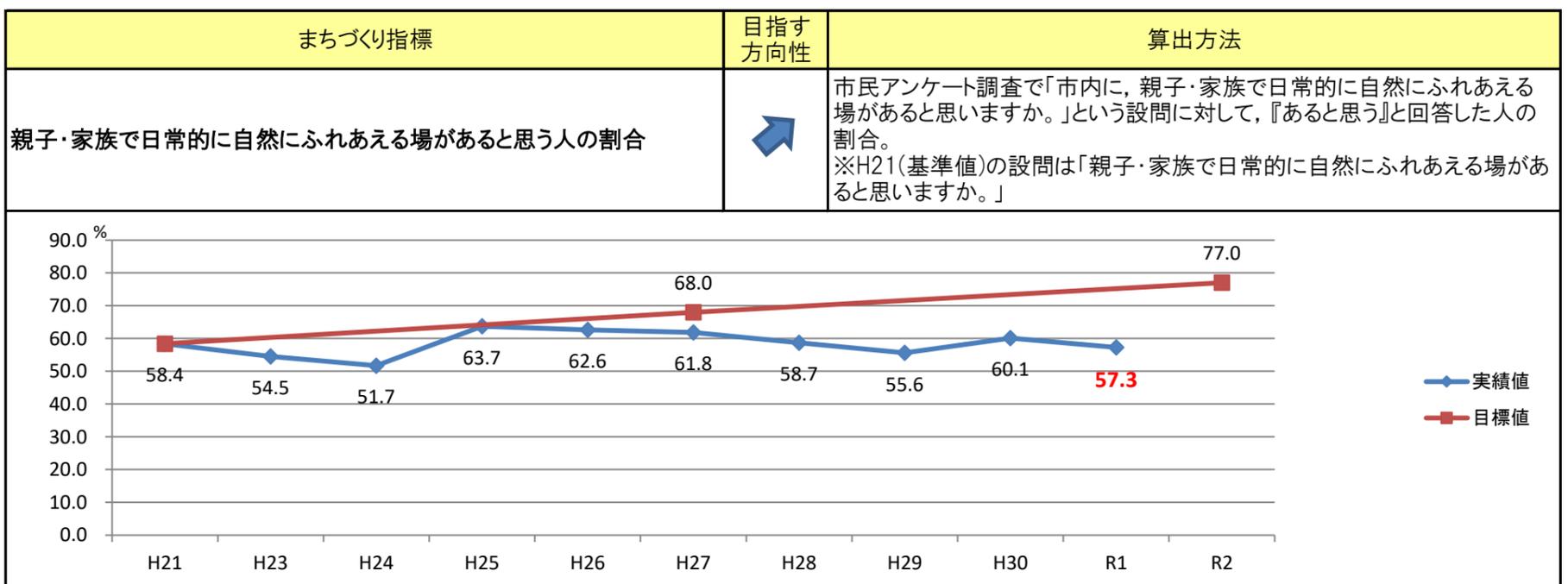
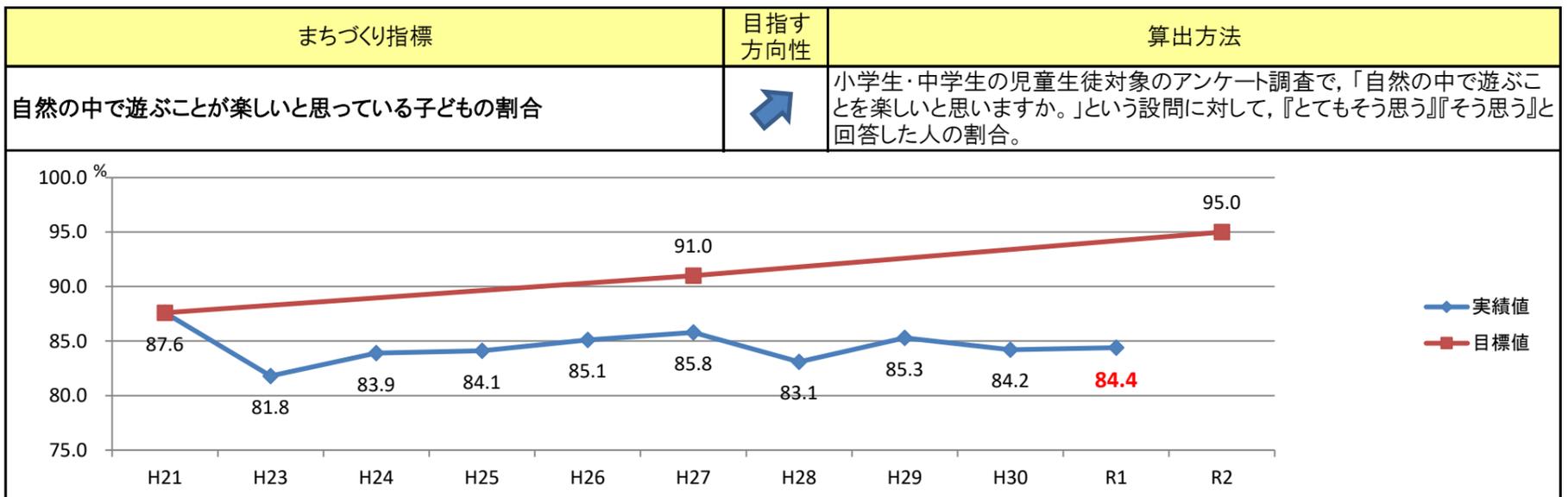


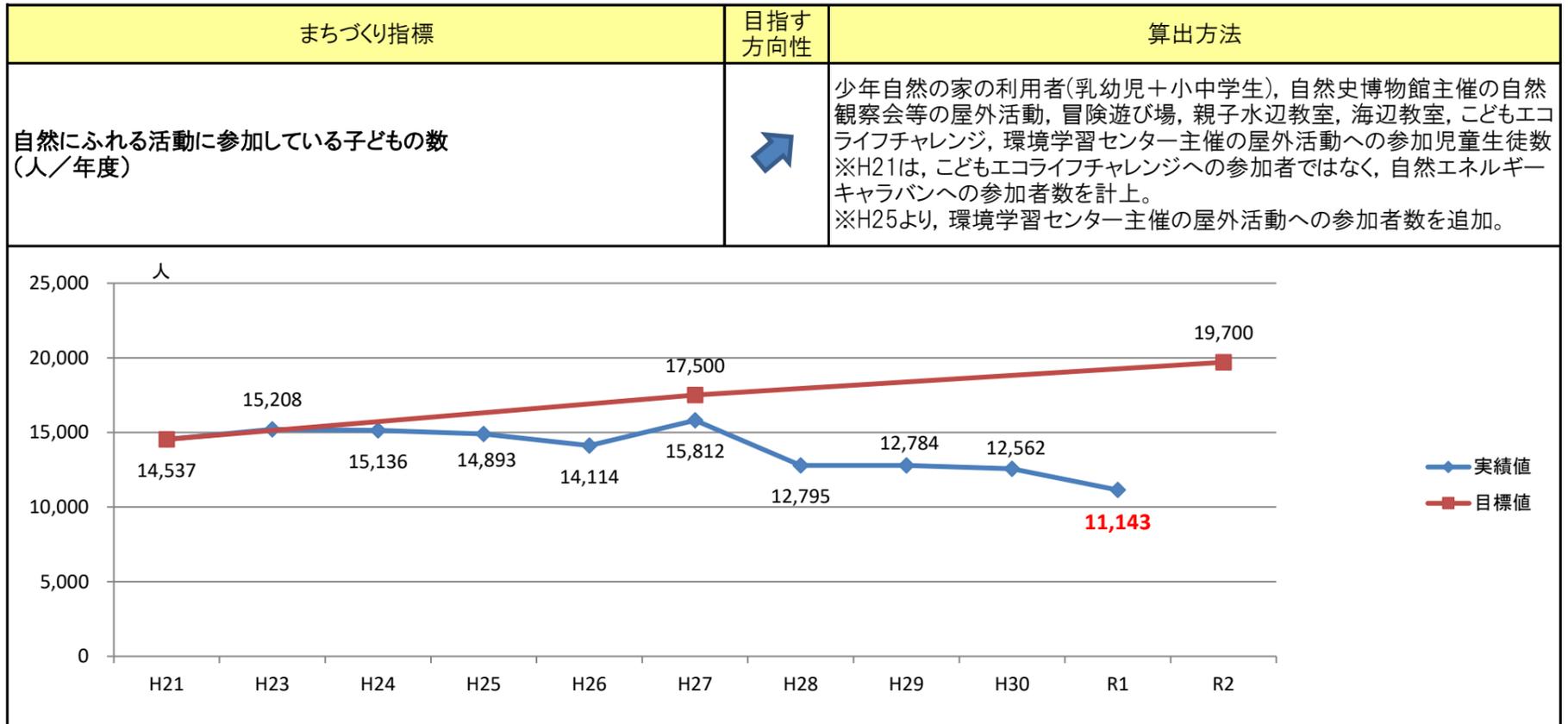
【豊か】 めざすまちの姿 子どもたちが自然にふれながら、健やかに育っている

市の基本方針

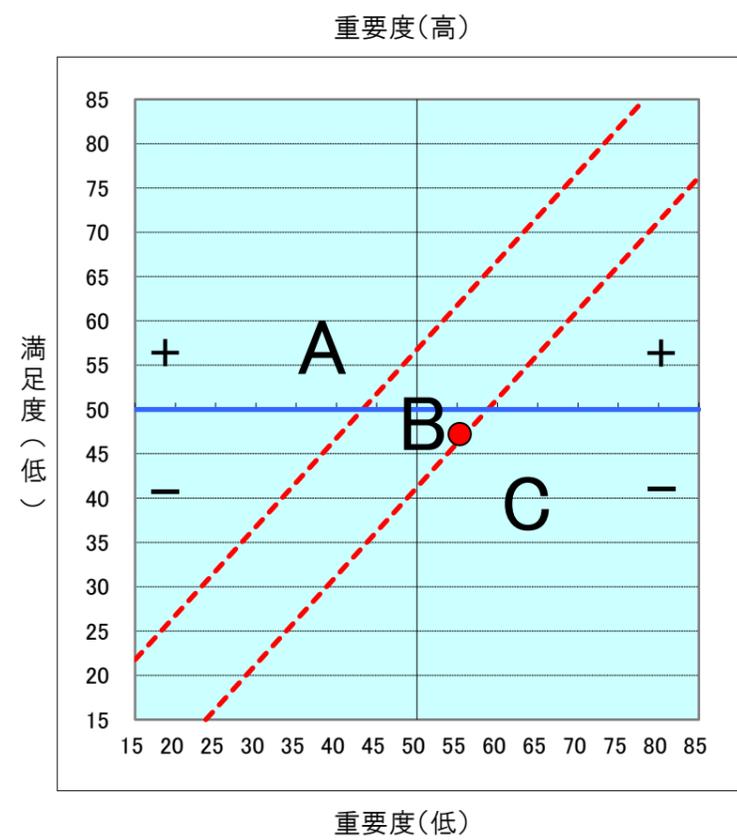
- 次世代を担う子どもたちが四季を通して緑や生き物などの自然とふれあう中で、楽しさや喜び、またいのちの大切さを実感できるよう、自然体験活動の機会を充実します。
- 学校と地域のボランティアや市民団体、事業者等が連携し、子どもの環境教育を効果的に実施するよう努めます。
- 子どもたちの自然体験活動を支援する指導者やボランティアなどの育成と資質向上を図ります。
- 子どもたちの自然への興味や関心を高め、自らの学びを支援するため、計画的に施設や設備の充実に努めます。

数値目標





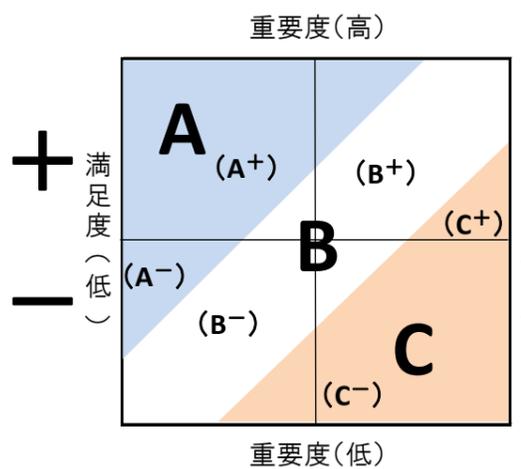
市民の重要度・満足度(R2.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
C ⁻	47.21	55.31

●重要度に見合う以上の満足度が得られている(C)
●重要度が平均値より低い(-)

【グラフの見方】



A: 重要度に見合った満足度が得られていない領域
 B: 重要度に見合った満足度が得られている領域
 C: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域

※ 以上の3つの領域を, さらに2つに分割(3×2領域)
 +: 重要度が平均値より高い部分
 -: 重要度が平均値より低い部分

A⁺, A⁻, B⁺, B⁻, C⁺, C⁻

A⁺: 重要度が高く, その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)／令和元年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R1年度 決算額 (千円)
	少年自然の家運営事業	(Ⅰ) 恵まれた自然環境の中で、子どもたちに野外活動や集団宿泊生活など学校や家庭で得難い体験の機会を提供することで、心の豊かな人間性と生きる力を育むとともに、自然を愛し自然に感動する感受性豊かな人づくりをねらいに実施した。 (Ⅱ) 主な実績は次のとおり。 1 子どもの利用者数 9,683人 大人の利用者数 2,988人 ・受入事業の子どもの利用者数 8,990人(乳幼児336人, 小中学生8,654人) 大人の利用者数 2,687人 ・主催事業の子どもの利用者数 693人(乳幼児116人, 小中学生577人) 大人の利用者数 301人 2 子どもの参加できる主催事業の実施状況 ・家族向け事業 2回 ・少年向け事業 1回 ・自由参加事業 1回 ・生きる力応援プラン(さわやかデー) 1回 (Ⅲ) PFI事業(倉敷市少年自然の家施設整備運営事業)による施設の建替え工事等のため、現施設は令和元年12月末で一旦閉鎖。施設整備後、令和4年4月から指定管理者による運営方式となる。	36,217
	環境学習推進事業	(Ⅰ) 市民に環境問題に関心を持ち、理解を深めてもらうことを目的として各種普及啓発事業を実施した。 (Ⅱ) 環境NPO・企業等と連携・協力し、座学形式のものや、フィールドにおいて実際に体験して学ぶ各種講座を63講座実施し、3,151人の参加があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	4,722
	環境学習協働推進事業	(Ⅰ) 専門的な知見を有する環境NPOと協働し環境学習を推進することを目的に実施した。 (Ⅱ) 子ども向けから一般向けを含め22事業を実施し、716人の参加があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	214
	自然史博物館管理運営事業	(Ⅰ) 施設・設備の適切な維持管理、効果的な広報活動、博物館協議会の開催、アンケートの実施等を通じて、安全・快適で利用しやすい環境整備や利用者増に努める。 (Ⅱ) 主な実績は次のとおり。 1 広報広聴活動(公式ツイッター、公式インスタグラムなどSNSの活用)、博物館協議会の開催。 2 博物館協議会の意見を踏まえて「中期計画」を策定した。 (Ⅲ) 今後の方向性は次のとおり。 1 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点を踏まえ、「新しい生活様式」を取り入れた施設運営に努める。 2 倉敷市公共施設等総合管理計画の個別施設方針・計画の策定を通じて、今後の施設の方向性を定める。	18,789
	自然史博物館調査研究、標本・文献等収集、展示、特別展事業	(Ⅰ) 市民の教養文化の向上に寄与することを目的として、自然に関する資料の収集、保管、調査研究をするとともに、その成果を展示する。 (Ⅱ) 主な実績は次のとおり。 1 調査研究事業…研究報告35号の発行。専門誌等への寄稿118件。 2 標本・文献等収集保管事業…標本等約59,000点、文献等3,275点の受入れ。脊椎動物グループ(標本作製ボランティア)の活動支援。 3 展示事業…「新着資料展」、「草地功地学標本コレクション展」などを実施。 4 特別展事業…第28回特別展「地球の元素」を開催。観覧者数12,622人。 (Ⅲ) 様々なニーズへの対応、及び新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点を踏まえ、「新しい生活様式」を取り入れて継続実施する。	3,963
	自然史博物館教育普及、まつり事業	(Ⅰ) 次世代における人材育成に貢献することを主眼として、学校園等団体及び市民への学習支援を行う。また、市民協働による事業として11月3日に自然史博物館まつりを開催する。 (Ⅱ) 主な実績は次のとおり。(数字は参加者数、カッコ内は野外活動における中学生以下の人数) 1 教育普及事業…各種観察会等の参加者計3,574(577)人。[内訳:自然観察会789(256)人、博物館講座184人、特別展関連講座83人、自然の標本なんでも相談会95人、動物研究会20(8)人、むしむし探検隊延べ162(33)人、植物教室21(6)人、手作り・折り紙教室延べ609人、スライド写真会32人、昆虫標本作り体験教室7人、出前講座等1,572(274)人]。レファレンス件数976件。 2 自然史博物館まつり事業…参加者数5,701人。 (Ⅲ) 様々なニーズへの対応、及び新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点を踏まえ、「新しい生活様式」を取り入れて継続実施する。	1,021
	冒険遊び場支援事業	(Ⅰ) 民間団体が実施している「冒険遊び場」の活動を支援することによって、自然体験活動機会の充実を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) 毎月の開催と夏休みの3日間連続開催を合わせて、合計12回のプレーパークを開催した。大人420人、子ども680人の合計1,100人が参加した。 2月は雨天のため、3月は新型コロナウイルス感染拡大防止による自粛のため中止とした。 (Ⅲ) 今後も支援を継続する。	276
	少年自然の家施設の管理・整備・美化事業	(Ⅰ) 施設の設備保全、利用者の安全や快適性の向上、衛生管理の改善を目的に実施した。 (Ⅱ) 主な実績は、次のとおり。 主な修繕…敷地内外灯柱(木製)取替修繕、体育館カーテンレール修繕、B棟ガラス取替修繕 (Ⅲ) 令和2年1月から令和4年3月まで、施設の維持管理のため、美化清掃を継続する。	10,956
創	少年自然の家PFI施設整備事業	(Ⅰ) 昭和51年の建設から40年以上が経過しており、施設の老朽化が進み、大規模修繕等が必要となっている。PFI事業による建替え等を行い、令和4年4月の供用開始を目指している。 (Ⅱ) 令和元年6月26日 倉敷市少年自然の家施設整備運営事業契約締結。 事業者 倉敷かわせみとくすの木の森株式会社 事業期間 契約日～令和19年1月31日 (Ⅲ) 令和2年1月から令和4年3月までに施設整備を行い、同年4月から令和19年1月までSPCが指定管理者として施設管理・運営を行う。	7,652